

## 平成 30 年度第 1 回鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会 会議録

- 日 時 平成 30 年 9 月 26 日（水）午前 10 時～12 時
- 会 場 鶴岡市総合保健福祉センターにこ♥ふる 大会議室
- 委員出席者 鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会委員 9 名
- 市側出席者 市民部長ほか鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会幹事、事務局 28 名
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴者の人数 1 人

（午前 10 時 開会）

### 1 開会（進行：コミュニティ推進課長）

### 2 挨拶（市民部長）

### 3 意見交換等

（事務局）

資料 1～3 により説明

（H委員）

次第 3 の意見交換等（1）及び（2）について伺いたい。これまで地域ビジョンを策定した組織が多いのか少ないのかは分からないが、地域ビジョンを展開したところがいくつかある。その具体的な展開の中で、ステップアップ事業補助金を活用し地域ビジョンの具体化に取り組んでいる地域はあるのか。

（委員長）

ステップアップ事業補助金を活用して地域ビジョンを策定した地域、あるいは今行っている地域でも良いかと思うが、事務局に回答をお願いします。

（事務局）

平成 28 年度に藤島地区自治振興会でステップアップ事業補助金を活用し「住みよいまちづくり藤島プロジェクト」として地域ビジョンを策定している。藤島地区自治振興会では策定した地域ビジョンに基づいて、平成 29 年度から今年度も含めステップアップ事業補助金を活用し事業を実施している。また、越沢自治会は、ビジョン策定にステップアップ事業補助金を活用してはいないが、ビジョン策定後の平成 29 年度にステップアップ事業補助金を活用して「越沢魅力アップみがき活用事業」を展開している。

(委員長)

現在進行形のところで、地域ビジョン策定を視野に入れながらステップアップ事業補助金を申請して来られているところや動向など教えてほしい。

(H委員)

ステップアップ事業補助金を活用して地域ビジョンを策定することも可能だと思うが、私が知りたいのは、地域ビジョン策定後にステップアップ事業補助金を活用し、具体的に地域づくりに取り組んだ団体があるのかということ。

(委員長)

そうすると先ほどの藤島地区自治振興会と越沢自治会が具体的な事例になる。策定した地域ビジョンに基づき具体的な取組を進めるため、ステップアップ事業補助金を活用されている。

(H委員)

私の考え方からすると、やはり地域ビジョンを作ると、地区として何らかの事業展開が図られると思う。その場合にステップアップ事業補助金を活用することで、より効果的な取組が出来、具体的な動きも見えてくると他の地区にも広がる可能性があると思う。ステップアップ事業補助金の額はあまり多くはないが、地域ビジョン策定と連動した形で活用されるとより効果的なのではないか。また、ステップアップ事業補助金について、ステップアップなので三段跳びのホップ・ステップ・ジャンプのように、補助金額等取組を評価しながら広げていくような視点も必要ではないかと思う。

(委員長)

事業ごとの連動や、ステップアップ事業補助金を三段跳びのように、頑張っている地域には応援の意味やモデル事業としての波及効果も含めて、段階的に補助金額を広げるなどの補助金の見直しを検討できないかとの提案をいただいた。

(I委員)

関連して、現行のステップアップ事業補助金の助成は単年度でなく複数年度助成する等、もっとその地域に根っこをはるためのお金の使い方をした方が良いと思う。やる気のある人にはいつまでも助成をするというような励みとなる助成がいいと思う。

(F委員)

地域ビジョン策定に動いているところと動いていないところがあるのはどういう違いなのか。また、市として取組に対しもっと積極的に働きかけないのか。やるなら全ての単位

自治組織や広域コミュニティ組織等で取り組むべきではないか。

(委員長)

藤島地区自治振興会では、ビジョン策定とステップアップ事業補助金を活用しながら、先陣を切ってビジョンに基づいた取り組みを進めており、藤島地域全体にも声掛けや東栄地区も含め連携しよう、広めようと活動していると思うので、何か情報をいただけたらお願いしたい。

(A委員)

藤島地区では地域ビジョン達成計画を住民に配布しており、今後 2020 年までどのような形で事業を展開し、ビジョンを達成していくかということで 3 年目に入った。また、現状を分析して合意を図り、推進・展開・定着・進化と、それぞれ 3 本の矢のようなものがあり、この目標を達成するための事業を組み始め 2 年目に入っている。ステップアップ事業補助金は、ワークショップでビジョンを作成する年も交付いただき、その後 2 年間事業を展開するためにも交付いただいた。ステップアップ事業補助金は同一事業に係る補助が最長で 3 年とのことなので、先ほど意見あったように、永遠とは言わないがより長い目で補助してもらえると事業を実施しやすくなるのではないか。私の感想だが、一点目は、来年になると振興会の理事あるいは町内会長、三役が大体一斉に代わる。半分以上は代わると思う。そうすると平成 28 年度に策定された地域コミュニティ推進計画が、おそらく机の中にしまい込んでなかなか見えてこないのではないか。したがって、3 年目で中間年であるので、もう一度市から各団体の皆さんに、推進計画を説明する機会を設ける必要があるのではないか。二点目は、中間年なので計画のローリングが必要かと思う。一度チェックを図りこのまま進めて良いのか、あるいは立ち止まって別の方向を向いた方が良いのか、もしくは住民の熱意があり飛躍した場合は先取りして進めても良いのか、などといったことがあると思う。したがって、一度代表者を集めて、5 分くらいずつ事例発表のような中間発表会を実施し、中間年の総まとめを一度行った方が良いのではないかと思う。

(委員長)

A 委員に伺うが、進むところと進まないところ、進めようという気持ちがあってもなかなか進まないところ、全く関心が無いことはないと思うがビジョンは自分たちには関係ないという思いのところなどがあるのも、実情としてあるのか。

(A委員)

あると思う。やはり、熱意の問題はそれぞれ個人差があるし遅い人や早い人もいる。また、一生懸命頑張ろうという人、どっちでもいいという人、やっていない人の 3 つに分かれると思う。この辺は地区担当職員のアドバイスやいろいろな経験を伝えることで限界を

知ることも必要だと思う。

(I 委員)

地区担当職員制度の見直しとあるが、どういった理由で見直し、どのような方向に持っていこうとしているのか。

(委員長)

具体的な状況やどのような検討をしているのか、事務局に願います。

(コミュニティ推進課長)

地区担当職員制度は今年度で 6 年目を迎えている。一生懸命、地区と活動をしているところがあれば、年一回ぐらいの顔合わせで終わるところもある。地区によってかなり温度差があるので、そのような現状を踏まえつつ地域のニーズはどういうところにあるのかということも含め、見直しを検討しているところである。詳細はこれからなので固まり次第ご紹介したいと思う。

(I 委員)

F 委員の質問やコミュニティ推進課長の答えもそうだが、結局やる気のある人が、いるかないかなのではと思う。今私が気になっているのが生涯学習推進員である。生涯学習推進員の方の意識の問題だが、生涯学習推進員としての自覚を持ってその地域で活動しているのかというところが非常に疑問である。生涯学習推進員の選び方も問題があるのではないか。この地域から何人といった組織重視の人事の仕方をしていないだろうか。もっと人重視の選出をしてもらい、地域の活性化に役立てて生かしてもらいたいと非常に思う。私はここで委員をやらせてもらっているが、たまたまコミセンの役員になった。自分がやらなきゃ駄目だということが入っていったが、実際現状に身を投じてやっている中で地域の人の思いの違いや温度差が良く分かった。課題も分かりその解決のために自分がやればいいのかということ、現在、事務局長と一緒に一生懸命やっている。

(委員長)

ここにいる皆さんは、特に思いが強く辞められずに頑張っている方も多いと思う。皆さんから内容の濃いお話を進めていただいているが少し復習する。先ほどH委員からも意見があったが、ステップアップ事業補助金を複数年度に拡大できないかということだった。藤島地区自治振興会でも 3 年間フルにビジョン策定等にステップアップ事業補助金を活用しており、率直な意見としては、ビジョンが大体 5 年計画なので、取組を進めるうえでももう少し助成していただくと有難いということ。また、中間年ということで、例えば三役一斉に代わり退任してしまう時に、色々工夫しつつ研修会のようなことも兼ねながら

中間発表会というのがあってもいいのではないかとの提案だったと思う。あとはI委員から、もう少し生涯学習推進員も活用できるのではないかとのことだった。もっと、人重視で選んでいけないかというようなご意見もいただいた。それに関連して現場での状況などの意見でも構わないが、3年で進むとなかなか客観的に自分では見つめ直しにくいかもしれないが、3年経過し課題が増えているところ、深くなっているところもあるかと思う。どちらの視点でも構わないのでいかがか。

(N委員)

私の理解が少なく生涯学習推進員という言葉が今日初めて聞いた。第三学区では福寿大学、遊学ゼミ、趣味教室など年間計画を立て実施しているが、高齢者が多いのが原因かと思う。年々参加する人が少なくなるという問題を何とかしようと、制度の見直しの話が挙がり今話し合いに入っている。そこで質問だが、生涯学習推進員は実際どういう活動をしているのだろうか。過去の事例を教えてください。

(委員長)

全体の取り組みを事務局で説明いただいてから、現場のF委員にお話いただければと思う。資料3の2ページ3ページに生涯学習推進員がどう関わっているのかというあたり、N委員が関心あるかと思う。

(事務局)

生涯学習推進員の活動内容についてだが、各コミセンや地域活動センター等、生涯学習施設が行う生涯学習事業の活動を支援し、講座等の企画、実施、運営等に協力したり、地域の講座に参加している人たちの様子を見ながら住民ニーズを把握したりしている。生涯学習推進員の方からは、活動した際に活動日誌を記入し提出いただいている。それに基づき、地域でどんな活動をしているのかを市でも把握している。また、推進員を対象とし、交流の場を設けながら研修も年一回開催している。第三学区は、「ちびっこ広場」に推進員が一緒になって取り組んでいるようだ。

(N委員)

実際に過去にあった事例など具体的な活動内容を知りたいのだが。

(委員長)

F委員から第一学区の事例などをお願いしたい。

(F委員)

私は第一学区の生涯学習推進員をしている。恐らく、各学区や地域によって生涯学習推

進員の立場、活用のされ方が違うと思うので全てに共通するわけではないと思うが、第一学区に関しては生涯学習推進員委員会というものがあるわけではなく、鶴岡市から委嘱された生涯学習推進員ということで活動している。第一学区の場合、私が入る7,8年前までは生涯学習推進員は、手元の資料の生涯学習事業記録に記載のある第一学区の地域活動事業のいくつかにお手伝いとして関わるというような活動をしていた。ただ近年、やはりそれではいけないということで生涯学習推進員として独自の活動をしている。一つは、参加者はほとんど高齢者になるがその方々に向けた一日のバス旅行の企画や、子どもたち向けには先週の土曜日に湯殿山に行くというような、地域を知ってもらう活動がある。さらに、リタイアされた方々については元気で過ごしてもらうようにということでバス旅行を企画するという事業を生涯学習推進員独自の活動として行っている。あとは、その都度鶴南大学や文化祭、夏祭り等に担当の部門でお手伝いをするという活動を行っている。それらが第一学区で実際に行っている活動である。ただ、これが第二学区、第三学区、他の地域の推進員に当てはまるかどうかはわからないが、第一学区についてはそのような活動をしている。

(委員長)

I委員も生涯学習推進員だが、もし何か意見等あればお願いしたい。

(I委員)

N委員が求めている生涯学習推進員というものに対して、求めているニーズは本来の生涯学習推進員のあり方だと思う。それに現在の生涯学習推進委員会が応えていくべきだと思う。

(委員長)

学区の生涯学習推進員が誰か分からないということが一番問題のように思えるので、そこは個別に解決をしていただきたい。

(I委員)

現在の生涯学習推進員というのは、全体の行事に対してフォローしていくような立場であると感じる。しかし、本来の生涯学習推進員は、私は違うと思う。事務局の考え方とは違って意に反するかと思うが、本当の生涯学習推進員というのはもっと深いと思っている。

(H委員)

楡引地域の生涯学習推進員の取り組み状況を少し話すと、楡引地域にも数名のメンバーがいて、楡引生涯学習センターで年数回推進員の集まりがある。それにはセンターの事務局局長はじめ、事務局員も出席しながら年間でどういう講座が必要か話し合いながら決めて

いる。決まった場合、講座の講師の選出や、依頼等を含めて推進員が具体的な企画を担当し、センターの事務局長はじめ事務局員が、それをサポートする。この事務局自体は今年から始まったので、全ての講座に出つつ状況がどう展開していくのかという事をチェックしながら課題を探っている。櫛引地域の場合はそのような形で関わっている。櫛引生涯学習センターは、社会教育施設であるが、生涯学習推進員は社会教育課の任命ではなく、コミュニティ推進課の任命で、少し仕掛けが複雑なところがあるが、お互い連携しながら事業を進めている状況である。

(委員長)

各地域よって推進員の活動状況が違うというのが正直なところであり、社会教育の視点があるかどうか等も含め多種多様な現状が確認できた。

(A委員)

藤島地域も例外なく生涯学習推進員は事務局のお手伝いの要素で全ての事業に参加している。地区公民館からコミセン化に移行した背景は生涯学習がベースである。これから人口減少、少子化、超高齢者社会に向けて自主防災や地域福祉、まちおこしをしていき元気にしなければいけないということで地区公民館からコミセンへ変わった。生涯学習推進員はもともと地区公民館からのつながりで、生涯学習と社会教育の区別はよく分からないが、その他の防災関係や福祉関係、まちおこしのための様々な事業には関係ないという言い方もある。一度、地域庁舎の方に生涯学習推進員をまちづくり推進員に変えて、もっと自由に色々な事業に関われるようにしていただき、必要経費もコミセンに予算化していただければ、もう少し連携して事業を進めることが可能なのではないかと市に問い合わせたことがあった。市からは、社会教育法で生涯学習が決まっている中での委員なので難しいという回答が返ってきた。しかし、せっかく一生懸命やっているのだから、まちづくりの推進員として、お手伝いではなく企画も含め大いに活動していただける人材を求めたいと市に提言をした。

(委員長)

永遠の課題であり難しいところであるが全て大事である。分野ごとに柱立てがあり、それぞれの担い手が頑張っているが、現場は同じなので一緒に連携してやろうというのが一番の理想であると思う。しかし、実際は社会福祉協議会も含め背景にある制度や法律、予算が違うなど現場での調整が引き続き難航しているのだということを経験できた。地区担当職員の見直しは事務局から説明があったが、生涯学習推進員も結論としては地域特性に合ったやり方でしかできないと思うが、N委員からの問題提起を出発点に見直しをする必要があるのではないかとというのが感想である。

(F委員)

すごく混乱するのが、現在実際に活動していることを、資料 3 にある地域づくりにつながる生涯学習活動と難しく言われてしまうと、今現在活動している推進員のスキルと求められているものが違うのではととても感じる。本当に地域づくりにつながる生涯学習活動を推進員にしてほしいというのであれば、もっと研修の機会を設けて実際にこういう人が必要だということを具体的にしていっていき動きやすいのではないだろうか。また、先ほどA委員から発言のあったまちづくり推進員というのがもしかして一番分かりやすいのではと思う。実際やっているのはそういうことであり地域づくりにつながるということもある。ただ、スキルと求められているものが違うのではと思うので、求めるものに合ったスキルを持った人を育てるような研修が必要なのではないかと思う。

(H委員)

櫛引地域の推進員については、地域づくりに関わるメンバーには少し遠いと感じた。色々な種類の講座等の開催に視点があり地域づくりという視点が無いように感じるので、そこはやはり人材を求めなければいけないと思う。あるいは、現在の推進員がステップアップするような研修を取り入れないと、地域づくりまで展開するのは厳しいと感じる。ただ、推進員が地域づくりの旗振りの先頭に立つのはなかなか難しいものがあると思うが、それだけ推進員をサポートする体制ができてきているのかということも重要だと思う。

(N委員)

第三学区の活動をまちづくりにつなげるのは少し難しいと感じる。参加者の高齢化により参加人数が少なく、福寿大学、遊学ゼミ、趣味の教室と年間 18 くらいの講座を開いているが、趣味の教室が多くなっている。H委員の言うまちづくりまでは難しいと思うが、今後推進員の力を借りていきたいと思う。

(委員長)

積極的に人材育成していかなければいけないというのは、この委員会で根深くある意見である。日常的に関わる人を増やすことも大事な視点であり、悩んでいる地域もあると思う。少し話を転じ、他の課題とかテーマでも意見・質問をいただければと思う。例えば防災について関心が高まっているが、福祉も課題が山積みで社会福祉協議会との連携やコミュニティビジネス等についても話を伺えればと思う。全体を見渡して意見等をお願いしたい。

(J委員)

はじめてなので的外れなこともあるかと思うがご容赦願いたい。まず、地域ビジョンについて伺いたい。各地域で何件も地域ビジョンが出来ているという事は大変素晴らしいこ

とだと思ふ。市としてこれだけの数のビジョンが出来て嬉しいと思ふが、現在、中間年であり、これからあと 2 年について、どのように考えているのか。今後のことも少し出ていようだが、その辺りの評価について伺いたい。2 点目として、この会議は市民部サイドのものになるかと思ふが、誰もが安心して暮らし続けられる地域づくりについては、福祉の立場においても同じ目標だと思ふ。そうした中で、今年は特に市長が、包括支援センターを再編しスタートさせている。今後同じ地域づくりという目標に向かって、健康福祉部と市民部の連携について、教えていただきたい。

(委員長)

住民主体の地域ビジョン策定数についての評価を市としてはどう考えているのかということと、市民部局と福祉部局との連携について事務局に願ひする。

(コミュニティ推進課長)

地域ビジョン策定の進捗状況に対する評価についてという趣旨のご質問だと思ふが、最初の資料でお話したように、現在地域ビジョンについては 4 件策定されている。それ以前に作られた振興ビジョンなどを含めると大分出揃ってきたところである。地域ビジョン策定にあたり各地区では住民の皆さんで現状の把握から入ると思ふが、いざ動き出す時はかなりエネルギーを使うと思ふ。まだ 4 件という評価だが、成功事例が少しずつ増えていくと他の地域でも危機感などを持ち、それでは自分たちもということで徐々にスピードは上がっていくのではと思っている。現在のところはまだこのような件数ではあるが、今回の推進計画の後半の 3 年間、これから 2 年間になるが見守っていきたいと考えている。また、ビジョンを作るにあたっては、市としても色々お手伝いをさせていただいている状況である。そのような支援の仕方も含めさらに件数の積み増しを図れるようにしていきたい。

(I 委員)

それに関連して、コミュニティビジネスの限界というか、どこまで許されるのかということを知りたい。

(委員長)

まずは、市民部局と福祉部局との連携についてお聞きしたい。

(長寿介護課長)

地域課題ということで、どうしても高齢者の課題が非常に大きく地域の方々もその視点で取り組みやすいのではないかと。そういった観点からも、コミュニティ推進課、福祉課、長寿介護課、地域振興課の 4 課が地域課題についてどう連携して進めていくかということと昨年 3 回ほど会議を開催した。それを発展させるために、現在長寿介護課では地域ケ

ア推進会議を開催しており、その中で様々な課題について検討している。今年度は高齢者の移動手段について議論を進めており、分野横断での対応を検討している。

(J 委員)

モデル的に成功事例が出てくると弾みがつくと言うのは分かるし、ぜひ頑張ってもらいたい。委員からも様々な意見があるが、何と云っても人材の育成が無いと先に進まないのかなと私も思うので、ぜひその支援をお願いしたいと思う。地域づくりについては同じところを目指して色んな切り口からやっていると感じる。ぜひ組織の中で意志疎通を図り、一つの目標に向かって少しでも市民のためになる施策を進めてもらいたい。

(委員長)

先ほど I 委員から挙げていただいたコミュニティビジネスについてはどうか。コミュニティビジネスを地域の課題解決の手法として希望されている方もいるが、それだとなかなか進まないのではどうしたらいいかというのが計画立てた時も議論があったので、羽黒の活動の状況や、あるいは今後こんな応援をしたらこういう方向に進むのではないかという提案やアイデアがあれば教えてほしい。自由にご意見ご発言していただきたいと思う。

(E 委員)

コミュニティビジネスと関連するかどうか分からないが、一つ事例を紹介させていたきたい。私たちの地域では温泉町プロジェクトという組織が 2 年前に立ち上がった。地域を活性化しようという組織なのだが、面白いのが地元の人はもちろんのこと、半数が外から来た人たちが参加するという組織である。土着の人ではない人たちが、この地域を何とかしようと思い立ち上げたのが、温泉町プロジェクトである。大変面白いと思い私も参加させてもらっている。なんとかここに来るお客さんを増やしたいという思いと、外から来た自分たちがここで生活していく基盤をなんとか作りたいという思いがベースにある。ビジネスもそこにあるとは思いますが、例えば宿坊という宿泊施設があつて後継ぎがない状況の時に、その宿坊に自分たちが行き、修験道などを広めながらお客さんを呼んでナリワイとしたいというような思いや、単純にお客さんがたくさん来るので、ここで何かしら商売をして生活していきたいという思いの人が実は少なくない。それらがうまくいくとモデルケースになるのかなと思う。当然課題はたくさんあり、地域の同意が得られなければ難しいということもあるが、我々地域の人たちがサポートしていきたいし、ぜひ鶴岡市全体で協力して支えていただければ。彼らは、「色んな商売のやり方があるし、地域でもっとうまくやれるはずなのに勿体ない。こんな資産があるのにそれが商売に繋がっていない。もっと利用できるはずだ。」ということをよく言っている。そういったところから、いろんなヒントも生まれてくるだろうし、彼らをどんどん受け入れることで地域も活性化していくし地元のためになると思う。

(B委員)

農学部で森林のことを教えており分からない話が多かった。最近コミュニティビジネスに関して感じていることで、農村よりももっと山間の方に近いところの資源の話だと思っていただきたいのだが、従来は山から採れる山菜を販売したり木を販売したりして生活していたが、そういう人たちが減少あるいは高齢化していく中で、外部から来てもらうことで収益を上げていくケースが増えてきているように思う。一方で、例えばこれは収益にはあまりなっていないのだが、鉄道好きの人たちの一部に林鉄が好きだという人がいる。森林鉄道の軌道を使用して木材を搬出していた時期がありそれを見に来るのが好きだということ。実はそのような需要があり、そのような物を地域にも何か収益が上がるような形に変えていけるのではないかと、また、森林の軌道に限らず他にもそのようなものがたくさんあるのではないかと考えている。来訪型の需要というものを地域に収益をもたらすような形に変えられるのではないかと。例えば山菜は以前、地元の人が販売していたが、そうではなく山菜を取りに来てもらう事も一つの例としてある。

(A委員)

各団体とも財源の確保ということに悩んでいるかと思う。市から交付金や助成金としておおよその部分をいただいているのは大変助かっているが、これから色んなまちづくりのことをやるとなるとどうしても財源が必要になると思う。その中にコミュニティビジネスという話があるがそれには三つのハードルがある。一つは振興会の利益を優先するのに受益者の住民にそれだけ負担を求めているかということ。自治振興会というのは自治機能を発揮するもので儲ける場所ではないし、なぜ儲けるために住民からそんなにお金を取るのだろうかということ。一つの例として学習塾があるが、一般的な学習塾は結構いい値段でやっているみたいだがそんな値段で振興会では出来ないで、例えば10日通って2,000円程度いただいて一日2時間教えるといったサービスを提供していくということなので、ビジネス化には程遠いのが一つのハードルである。次に法律のハードルがある。私が勝手に住民タクシーと呼んでいるのだが、免許返納や過疎化、老夫婦だけで住んでおり医者にも買い物にも行けない方がたくさんいる。そういう中で住民タクシーをしたいということでコミュニティ推進課の方にも協力いただき調べていただいたのだが、やはり法律の壁がある。仕方ないという思いもあるが、他の県でもやっている所はいくつかあるようだ。その辺の法律の隙間をかいくぐってやるには大変な労力が必要となることが分かった。三つ目として、例えばレディカフェ（若いお母さん方が来て自由にお子さんを置いて、カフェでくつろいでいただく）は店舗との争いになり、かなり難しい。特産物を作るのもそう簡単ではなく、財源確保がどうしても必要なのでぜひ市と協力しながら何とかやりたい。年一回の総会で、いつになったらビジネスと言うのかと言われる。ぜひ市からも全面的な協力を頂いて調べていただき法律の隙間を狙えるようなことを教えていただくと大変ありがたいと思う。

(委員長)

三年間で私自身の評価として、一番進んでいないのがこのコミュニティビジネスなのではないかと思う。地域振興課との連携やどこまでをコミュニティビジネスと呼ぶのかという考え方、法律のハードルの問題などもあったが、この計画に入っている理由としては皆さんがお話くださったとおりの二つの視点があると思う。一つは来訪型需要というキーワードを出していただいたが、地域資源がたくさんあるのに自分たちでは十分気付けない、活用できないそれらを、外部の人と関わってそれらを刺激・活用してくれたりすることを通して、住んでいる場所で住み続けられるためにも地域に活気を与えたり、新たな関係者や雇用を増やしたいという点が一つ。二点目は財源確保が必要ということ。この二つの視点がコミュニティ推進計画の中にコミュニティビジネスというキーワードで出てくるのではないかと皆様の話を伺って改めて整理できたと思う。事務局に投げて申し訳ないが、この辺り内部でどんな話合いがあるか、あるいは地域振興課とは先ほど説明の人口分析・予測シミュレーション事業など連携して進めていると思うが、それを含め今の課題についていかがか。今こんなことを考えているとか地域からこんな話が出ているとか。

(コミュニティ推進課長)

コミュニティビジネスについては今ご意見を伺ったところが多くを示していると思うが、市の支援としてはコミュニティ推進計画にもコミュニティビジネスの推進を図るという文言があるのでそれに沿って支援をしていきたいと考えているところ。具体的には資料にもあるが、住民自治組織ステップアップ事業補助金の中でコミュニティビジネス推進枠がある。取り組むところには優先的に補助金採択という仕組みをしているが、現実的には事例でもご覧いただけるがそんなに数は無い。ビジネスであるので住民自治組織でやる場合の体制の問題やリスク管理もあろうかと思うので、これまでの取り組みを見ながらどういう支援が良いのか検討していきたいと思う。

(I 委員)

極端な話、コミセンの中でコンビニを経営できるのかというもの。その辺、どこまで許されるのかお聞きしたい。

(委員長)

恐らく地域的には本当にそういうところに来ていると思う。全国的にも色んな事例があると思うし、山大農学部がそのあたりは知識があると思うが、農村振興の視点から進めている事例もあると思う。ただ、先ほどコミュニティ推進課長が言ったように、住民自治組織の体制の問題なども結構大きいと思う。何とかあと2年ちょっとでモデル事業を示せるようになることが、庁舎の皆様もそうだと思うが一番出来ることなのかなと思う。シーズやニーズは山のようにありそうでそれを形にするところに来ている気がする。中山間地域

のバージョンと街中のバージョンと色々有り得ると思うが、引き続きの課題ということでぜひ皆様からも知恵をいただきたい。

(H委員)

今日の会議の中で重要な視点というのは、地域コミュニティ推進計画の中間年だということと思う。したがってその状況報告をいただいたわけだが、地域ビジョン策定を大きな柱としてとらえてきているので、これをいかに後半に向けて拡大していくかが課題だと思う。しかし、実際自分はどうかと言うと、昨年まで榎引区長会の会長までやってきた関係で反省を含めて言うと、資料1の1に、「榎引地域は区長会、役員会、区長会全大会、地域づくり懇談会（地域づくり懇談会というのは担当職員が地域に出向いて話し合うこと）こういうところで周知している云々」と書いているが、地域で、どう進めるか、どういう姿になるのかというワークショップまで含めた取り組みを入れないと、なかなか拡大しないのではないかと思う。そのためには、どの範囲に配布するかは別にしても現在ビジョンを作って取り組んでいる地域の事例集みたいなものを中間的にまとめることも大事だと思うし、事例発表をすることによって何をすればいいのかというのが見えてくる。この地域ビジョン策定が大きな柱であるとすれば、これは後半に向けて体制を作り直しながら進める必要があると思う。また、2の地域課題解決に向けた取り組みについては、少子化や地域住民が集まる機会が少ない、子どもたちが地域に誇りを持ってくれるのか、などの課題は見えており、まとまっている。その中でもある程度取り組みやすい防災という視点がこの3年間のうちに柱になってきていると感じる。また、先ほどもあったように、支え合う、助け合うという視点からも福祉が非常に地域の中で重要である。それから、例えば地域に愛着を持つような宝物を子どもたちへどう伝えていくかといった取組等、地域の具体的な課題の掘り起こしや、それに対する取組に支援していかないと、進展していかないのではないかと今日特に感じた。また、生涯学習の視点からすると、人づくりは非常に重要な柱になるわけだが、やはり人づくりをするためのメニューの中には、もっと地域づくりという視点を大事にする必要があると思う。平成29年度版生涯学習事業記録を見させていただいたが、この中の事業が全部地域づくりに関わると言えばそれまでだが、もっとコミュニティあるいは地域にとって非常に重要な取り組みや事業に焦点を絞って、なんとか表に出していけないものだろうかと思う。地域づくりが人づくりであり、そのために地域生涯学習としてのメニューを考える必要があると常々考えている。なんとか後半戦に向けて地域ビジョン、そして地域課題の解決へ向けて具体的な展開を進めていく必要があると思う。

(委員長)

今日は全委員がいなく残念だが、大事な中間年の見直しの議論が出来たと思っている。H委員からまとめていただいたことの繰り返しになるが、一つは、やはりこの推進計画では地域ビジョン策定というところをぶれずに進める、あるいは手段として活用するのであ

れば、全体をぼやっと出すのではなく焦点を絞って前面に出していくべきところは重みを付けて発信していくとか、周知の仕方も関心のある人だけでなく幅広くしていくべきではないかということが2年半で必要なことなのかなと確認できた。また、もっと進めるためには、各地域のビジョンまでいかなくても何の課題に取り掛かるかということの優先順位等を示すようなアンケートみたいなものでアクションを起こすのも、意識化につながる可能性もある。そのような具体的な課題と取り組みを支援するような動きと、生涯学習推進員だけではないと思うが、人づくりという視点から、もう一度改めてメニューを見直したり論理付けしたりすることが必要という意見が出た。ステップアップ事業補助金、地区担当職員制度、生涯学習推進員などの各種制度の見直しを含めて具体的な提案を今日はたくさんいただけたと思う。時間的にはそろそろと思っているが、最後に何か質問等あればお願いしたい。

(A委員)

4、5年前に発表された鶴岡市の人口ビジョンと、総合計画の関連についてお尋ねしたい。

(コミュニティ推進課長)

担当部局が欠席しており、後程書面等でお知らせしたいと考えているのでご了承いただきたい。

(F委員)

一つ聞きたいと思った単語がある。資料に「ローカルデザイナーを設置」というものがあり、研修会のお知らせチラシにもローカルデザイナーという肩書の方がいるようだが、このローカルデザイナーというのはどういう方でどういう資格なのだろうか。

(朝日庁舎総務企画課長)

ローカルデザイナーについては、平成28年度から朝日地域の大網地区で小さな拠点づくり推進事業に取り組んでおり、コミュニティの他にも産業振興や地域内外の交流などといったところで、地域の方の生活も含めた中でどういった地域にしていくかということを検討するために検討会を設置し、現在実験事業等に取り組んでいる。その中でこの事業を推進するためのローカルデザイナーを配置しようということで、今年度コミセンの中に事務局員の他にローカルデザイナーを一人配置している。まだ確定ではないが来年度も引き続き配置したいと思っており、地域振興や小さな拠点づくりを推進するために部会のソフト事業のコーディネートを担当していただいている。特に資格が必要というものではなく、市で地元住民の方の中からふさわしい方ということで選ばせていただいている。

(委員長)

国も縦割りで色んな制度や事業があり、その中で様々な人材を配置していただいているということであった。先日、別の研修会があり、社会教育というか文科省関係ではコミュニティスクールや学校と地域と家庭の連携事業等で地域コーディネーターが配置されているようである。朝日は中央コミセンにも一人地域コーディネーターがいるようである。様々な名称で地域に関わることが増えていると思うが役割分担や連携は引き続き課題だと思う。

(I 委員)

防災の件で伺いたい。今年は非常に異常な雨が降ったが、これからの予想を超える気候変化があった時、三つあるダムが溜めきれなくて流れてしまう可能性があると思う。それに対する防災体制はどのように作っているか伺いたい。

(危機管理監)

ダムについての質問で良いだろうか。

(I 委員)

ダムもそうだが洪水等について。

(危機管理監)

洪水に関しては、県の基準等が変わったりするので、県から指標が下りてきてそれに基づいて地域に入り洪水ハザードマップを作っていくということになる。今年度は藤島川、京田川、黒瀬川について、この3月に県から指標が下りてきたので、これから藤島、羽黒等に洪水ハザードマップの見直しを作成するための会議や住民説明会等を行い避難所がここにあるという話を含め進めていく予定である。また、ダム等については基本的に国・県管理のダムになるのでそちらの状況が出てくる。今までは鶴岡地域はそんなに多く災害が起こらないと言われてきたが、今年度は「避難準備、高齢者等避難開始」命令、避難勧告等、今まで鶴岡市で出していなかったものを出している。そのような経緯もあり、いつどのようになるか分からないので、洪水については住民の方が避難できるように洪水ハザードマップ等を活用している。

(I 委員)

昨日、月山ダムの所長と話したら今年の8月は4回の警報を出しているとのことだった。これは今までなかったことだそうだ。したがって、これ以上はならないだろうという安易なものではなく、最悪の災害状況を考えたときどうしようか、という体制を取らなければいけないと思うし、それが防災だと思う。今、コミセンに防災体制、マニュアルを作るように言われているみたいだが、どのように行政と連携を取って作れば良いのか試行錯

誤しているので行政からコミセンに指導してほしい。早め早めに手を打っていきたいと思うのでご指導お願いしたい。

(委員長)

地域で課題意識が高まっており、自分にできることは何かと問いながら皆さん頑張っておられる。今後も引き続きよろしくをお願いしたい。ここで、意見交換を終わり、事務局にマイクをお返しする。

#### 4 その他

(事務局) 11月2日(金)開催の研修会のお知らせについて、新たな関係者の確保ということで「地域の担い手づくりから担い手を生かす地域づくりへ」と題し、鳥取大学地域学部教授 筒井一伸先生をお招きし講演と事例発表、パネルディスカッションを行う予定である。パネリストには三瀬地区自治会事務局長の竹内秀一氏、朝日東部地区自治振興ローカルデザイナー渡部恵美氏、酒田市日向コミュニティ振興会事務局長の工藤志保氏をお招きしパネルディスカッションを行う予定でいるので、委員の皆様からもぜひ足を運んでいただきたい。

#### 5 閉会